

拝啓

長尾先生、はじめまして。千葉県の上野市に在住です。先生にお礼の気持ちをお伝えたくお手紙を書かせて頂きます。先生の「母と死という親孝行」拝読させて頂きました。この本に出会わなければ私は先生のおっしゃる「あなたさえいなければ…」の「あなた」にたつところでした。私の父は右大腿部軟部腫瘍で、昨年の10月13日に74才で亡くなりました。発症は平成19年3月に手術をいたしました。幸い転移もなく腫瘍は取りきれたので、抗がん剤や放射線の治療もなく、定期検診だけしていました。しかし、昨年の2月に再発。3月に手術をしまして取りきれたのですが、5月に再発してしまい、大腿部に痛みがはじめ、肺転移も見つかりました。痛み止めを服用しただけで抗がん剤治療をしていたのですが、9月に骨盤の左上に転移し骨を溶かし、骨髄の腫瘍がびっしょりしていました。肺の転移も広がり、左肺に水が溜まってしまいました。軟部腫瘍は抗がん剤が効きづらいと聞いていたのですが、投与しているそばからこれだけ症状が悪化したので、このがんの勢いに驚きました。主治医からは「これ以上治療を続けると体力を使うだけなので、これからは緩和治療にしましょう」と言われ、在宅療養がはじまりました。父は病院に見放されたという思いが、ありショックを食ったようです。「おじはきたい」という思いは私もよくわかっていて、ネットで治療法を探索し、在宅医に相談したところ、「父には効果はいいし、かえって寿命を縮める事になるかもしれないからおすすめできない」と言われました。「おじもどうしても治療をしてみたい」と言われ、紹介状を書きから相談だけでも行ってみようとおっしゃって下さいました。私の納得のいかない気持ちをくみ取って下さったのだと思います。しかし、その治療法を行っている病院は都内しかなく、あきらめるしかありませんでした。自分や子供が具合が悪くなる、診察に行くと病院の先生にも相談したところ、在宅医と同じ事を言われました。在宅療養がはじまり、訪問入浴をお願いしたのですが、父は足が痛かったため、家での入浴はシャワーだけでしたので、久しぶり温泉船につかり、いつもと違ってハイルパルスと楽しいおしゃべりをしていました。おんぼに笑った父を見たのは久しぶりでした。

とん子父を見て「父にはとくいう時間の方が大切なのではいいか」と思いましたが、
キズめきらめがつかず 本屋にがんの最新治療の本がほしいかと探しに行った時
に先生の本が目にとまり、購入し治療の事は忘れ、夢中で読んでいました。即ち
ウロコが落ちるというのを知りました。私のしようとした事は間違いだったと確
信しました。私は嫁にむかひのど父とは暮らしていませんでしたが、それから毎日、
時間の許す限り父のそばにいました。在宅療養がはじまり、あつという間に寝て
きりになり、せん妄の症状がはじめ、訳のわからない事を言ったり、食欲もなくなり
水分が取れない状態になりました。しかし、先生の本を読んでいたのがあり
あつる事はわかったと思います。在宅医から「入院はじりますか？」と聞かれま
したが、父はせん妄の症状のせいで家にいるのに意識もうろうとしてから家に
帰りたいたいと言っていたので、母と兄と相談し延命治療はせず、最期は家で
と決めました。日に日に反応が鈍くなりいきました。とくする直前まで母と
会話をしていました。母が短時間目を離した間に父は眠るように静かに
息を引き取ったようです。私は看取る事はできませんでした。父の大好き
だった家で最期を迎えさせてあげることができた。私がしてあげられた
最期の親孝行だと思っています。しかし、父は申し訳ないのですが、「私はやっ
この苦しみから解放された」と思っしきいきました。たせたら、父はいつとくする
かわからない。いつの日か来るのかと毎日、口から心臓が出ているように思い
び緊張して過つていました。けれど時間がたつにつれてとくは解放感で
はたらく父に平穏死を迎えさせてあげたという達成感だったとわかりました。
たので私は悔いはありません。あるとすれば病気を治してあげられなかった
事です。でもとくは私にはどうする事もできません。あるお医者様に
「命を救うよりも心を救う事の方が大切」とアドバイスを受けました。私は父
の心を救う事ができたと思いたいです。私にさる人の子供がいますか？
「お母さんが病気にあったら、延命治療はしなくていいし、家では大変だから
病院でいいから」と言ったら子供達は「最期ぐらいはがまま言ってもいいんじや

ない」と言ってくれました。キジキジ味の事がもしれませんが、どうやら私も
平隠死ができています。先生には「これからもっと「平隠死」という言葉を広め
頂き、私のように病気を改め、最期の親孝行をしてみたいです。一人では
多くの親御さんに平隠死を迎えさせてあげたいと願っております。先生のおかげ
で十分に満足な最期を迎えさせてあげる事ができ、これも感謝しております。
ありがとうございました。たくさんのお患者様を抱え、先生も大変かと思いますが、
これからもお体に気をつけて頑張ってください。本当に本当にありがとうございました。

敬具